

スピーカー：代表取締役社長 藤原 正隆

大阪ガスの藤原です。

本日は、お忙しいところ、当社の 2025 年 3 月期決算の説明会にご参加いただきありがとうございます。また平素は、当社事業につきご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

それではただ今より、25 年 3 月期決算について、お手元の資料、または当社ホームページで開示しておりますプレゼンテーション資料に沿って、説明させていただきます。

2 ページをご覧ください。

I. 企業価値向上の取り組みの進捗

■P2 決算サマリー

最初に本日のサマリーをご説明します。

- 25 年 3 月期は中期経営計画初年度となりますが、概ね順調な進捗と考えています。
- 一過性の増益要因もあり、経常利益は対見通しで増益となりました。ROIC と ROE、ともに見通しを上回りました。
- 自己資本のコントロールとしては、自己株式の取得 400 億円を実施しました。
- また、米国火力発電所の売却決定など、保有アセットの見直しを進め、資本効率の向上を意識したアセットライトな経営を推進しました。
- 26 年 3 月期の収支見通しは 3 月の経営計画公表時から変更ありません。
- 26 年 3 月期の配当は、中期経営計画 2026 の配当方針に基づき、前年より 10 円増配し、1 株当たり 105 円を目指します。
- 加えて、今回、取得期間 1 年、上限 700 億円の自己株式の取得を実施します。
- 中期計画 2026 で掲げた ROE 目標 8% の達成に向けて、利益の向上とともに自己資本の抑制により資本効率を改善していきたいと考えています。

続いて、企業価値向上の取り組みの進捗についてご説明します。

■P4 中期経営計画 2026 の進捗 主な指標

4 ページは、中期経営計画 2026 に対する進捗状況です。

- 25 年 3 月期は、概ね順調に推移しましたが、電力事業での市場取引による利益やタイムラグ差益等の、一過性の増益要因を除く実力利益水準では、ROE 8% には達していないと考えています。
- 中期経営計画最終年の 27 年 3 月期には ROIC 5%、ROE 8%、2030 年代早期には、ROIC 6%、ROE 10% を達成できるよう、取り組みを進めてまいります。

■P5 中期経営計画 2026 の進捗 主な取り組み

5 ページでは、各セグメントの主な取り組みを記載しています。

- 【国内エネルギー事業】における、姫路天然ガス発電所 1・2 号機の運転開始に向けた取り組みや、
【海外エネルギー事業】における、米国サビン社の安定的な利益貢献の拡大、インド都市ガス事業への追加投資など、
トランジション期に重要性を増す天然ガス・LNG を中心としたエネルギーバリューチェーンビジネスを国内外で拡大しています。
【ライフ&ビジネスソリューション事業】についても、各社の強みと Daigas グループのシナジーを発揮し、着実に成長させていきます。

- 併せて、将来の事業基盤構築に向けて、カーボンニュートラル社会を見据えた e-メタンや、再エネ等の事業にもバランスよく取り組んでいます。

■ P6 中期経営計画 2026 の進捗 キャッシュアロケーション

6 ページは、キャッシュアロケーションの状況です。

- 営業キャッシュ・フローの向上、政策保有株式の売却や、資産売却などの資産入替は、順調に進捗しています。
- また、財務健全性を考慮した上で、成長投資と株主還元を着実に実施しました。

■ P7 中期経営計画 2026 の進捗 株主還元

7 ページでは、株主還元についてご説明します。

- 26 年 3 月期は、700 億円を上限に、自己株式の取得を実施します。
- 期間は、2025 年 5 月 9 日から 2026 年 4 月 24 日とし、約 1 年を通して実施する予定です。
- また、26 年 3 月期の年間配当金は、前年より 10 円増配の 105 円/株を目指します。
- 今後も、DOE3.0% および 累進配当を基本に据えた配当を継続する一方、財務健全性を考慮した上で、機動的な自己株式の取得を実施し、資本効率の向上を図っていきます。

■ P8 ガバナンス向上に向けた取り組み

8 ページは、コーポレートガバナンスの向上に向けた取り組みのご紹介です。

- 当社は、2024 年 6 月より「監査等委員会設置会社」に移行しました。
- 目的は、エネルギーセキュリティリスクの高まりなど事業環境変化が大きくなっていることを踏まえて、取締役会等での経営方針・戦略の議論の充実と監督機能の一層の強化を図りつつ、より機動的な意思決定を行うことです。
- 移行後は、経営戦略や経営課題といった重要な課題に対する議論の充実化を図ることができたと感じています。
- 今後、各会議体の運営について定期的に振り返ることで、更なるガバナンス向上に取り組めます。

■ P9 成長投資の実績と見通し

9 ページでは、サステナビリティの取り組みについてご説明します。

- 2026 年度や 2030 年度の非財務目標の達成に向け、堅調に進捗しています。
- 2025 年 2 月には「エネルギーtransition 2050」を公表し、国の第 7 次エネルギー基本計画も踏まえて、新たに 2050 年のカーボンニュートラル社会実現に向けた全体像や取り組みを示しています。
- 次のページからは 25 年 3 月期の決算、および 26 年 3 月期の見通しについてご説明します。

II. 25.3 期決算と 26.3 期見通しの概要

■ P11 25.3 期決算の対前年比較のポイント

- まず、25 年 3 月期決算の前年比較のポイントです。
- 売上高は、国内エネルギー事業で電力販売量が増加したものの、LNG 販売量が減少したことや、原料費調整制度に基づきガス販売単価が低めに推移したことなどにより、前年に比べ▲140 億円減収の 2 兆 690 億円となりました。
- 経常利益は、タイムラグ差益の縮小などにより、前年に比べ▲369 億円減益の 1,896 億円となりました。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、政策保有株式の
- 売却による特別利益などにより、前年に比べ+17 億円増益の 1,344 億円となりました。

■P12 25.3 期決算の対前年比較(経常利益)

12 ページでは、経常利益の前年との差異理由を、セグメント別に分解してご説明します。

- ・【国内エネルギー事業】は、タイムラグ差益の縮小などにより▲147 億円の減益となりました。
- ・【海外エネルギー事業】は、フリーポート LNG 基地の一時停止影響などにより、▲77 億円の減益となりました。
- ・【ライフ&ビジネスソリューション事業】は、Jacobi で、販売量が昨年よりも減少したことなどにより、▲22 億円の減益となりました。
- ・なお、海外エネルギーセグメントの内訳の記載について、今回から表記区分を「エリア別」に変更し、より分かりやすく整理しております。

■P13 25.3 期決算の対前回見通し比較(経常利益)

13 ページでは、2月3日に公表した前回見通しとの比較をご説明します。

- ・経常利益は見通しから+366 億円の増益となりました。
- ・【国内エネルギー事業】は、電力市場取引の好調や、2月の低気温によるガス販売量の増加などにより+230 億円の増益となりました。
- ・【海外エネルギー事業】は、上流事業の増益などにより+14 億円の増益となりました。
- ・【ライフ&ビジネス ソリューション事業】は、材料ソリューション事業での販売量の減少などにより▲12 億円の減益となりました。

■P14 26.3 期見通しの対前年比較のポイント

14 ページは 26 年 3 月期見通しの前年比較のポイントです。

- ・売上高は、国内エネルギー事業でのガス販売価格の下落等により、前期に比べて▲290 億円減収の 2 兆 400 億円となる見通しです。
- ・経常利益は、主に、電力市場取引など前年の一過性の増益の反動や、米国の再エネ事業における利益計上先の変更などの影響により、前期に比べて▲246 億円減益の 1,650 億円となる見通しです。
- ・親会社株主に帰属する当期純利益は▲74 億円減益の 1,270 億円となる見通しです。

■P15 26.3 期見通しの対前年実績比較(経常利益)

15 ページでは、26 年 3 月期見通しと前年の経常利益の差異理由を、セグメント別に分解してご説明します。

- ・【国内エネルギー事業】は、電力市場取引の利益増の反動などで、▲100 億円の減益を見込んでいます。
- ・【海外エネルギー事業】は、油価下落に伴う豪州エリアでの減益などで、▲109 億円の減益を見込んでいます。
- ・【ライフ&ビジネス ソリューション事業】は、都市開発事業の好調などにより+52 億円の増益を見込んでいます。

■P16 成長投資の実績と見通し

16 ページは成長投資と財務健全性を示しています。

- ・25 年 3 月期は、2,094 億円の成長投資を行いました。
【国内エネルギー事業】では発電所など、
【海外エネルギー事業】では米国上流事業の開発、インド都市ガス事業など、
【ライフ&ビジネスソリューション事業】では都市開発事業などに、
主に投資しました。
- ・26 年 3 月期は、2,090 億円の成長投資を計画しています。
- ・期末時点の財務健全性指標は、中期計画 2026 で示している水準「自己資本比率 45%以上、D/E比率 0.8 以下」を確保しています。

以降は説明を割愛いたしますが、

17 ページからは、25 年 3 月期決算と前年との比較、

23 ページからは、25 年 3 月期決算と 2 月 3 日に公表した見通しとの比較、

29 ページからは、26 年 3 月期見通しと 25 年 3 月期実績との比較

また、35 ページ以降に、収支感度、バランスシートの増減、タイムラグの状況などの参考情報を記載しておりますので、ご確認ください。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。

注意事項：

本書に記載される情報は、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。